

ひしのみだより

令和7年12月 1日

文責 園長 和泉 秀浩



親子ふれあい会

11月22日は、ひしのみこども園「親子ふれあい会」でした。造形遊びをしたり、一緒に遊んだりして親子の触れ合いを楽しむことを目的として計画したものです。3歳以上歳児と3歳未満児に分かれて行いました。今年で2年目となります。

3歳以上歳児は、4つの造形遊びをして、ホールでゴールとなります。造形遊び内容は、①うさぎ組では「けん玉づくり」、②みかん組では「牛乳パックでカエルづくり」、③ひまわり組では「ぶんぶんゴマづくり」、④にこにこルーム・絵本の部屋では「飛行機づくり」をしました。

3歳未満児は、親子でおやつを食べるところから始まり、段ボール積み木や段ボールカー、トンネル遊び、ポットン落とし、ボールプール、風船遊びなど、園児たちがやりたい遊びを親子で楽しみました。制作コーナーでは、ペットボトルみのむしや水玉きのこを作りました。

終わりには、ホールに集まり、親子で「昆虫太極拳『難』」を踊りました。保護者の方も練習してきていただいたようで、振りもばっちりでした。

園児たちの笑顔がいつも以上に輝く1日となりました。ありがとうございました。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

新しい指導要領の話は本格化してきました。右の表は、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、育まれている幼児の具体的な姿であり、特に、5歳児後半に見られるようになる姿として示されています。

これらは、全ての幼児に同じように見られるものではありません。幼児の自発的な遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものです。

何もせずに、10の姿は育まれません。5歳以前から幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことが保育教諭の使命です。キーワードは「遊び」です。

本園では、研究テーマを定め、研修を行いながら園児の発達段階に応じた教育・保育の実践に努めています。それぞれの特性や発達段階を踏まえた遊びの環境づくりや言葉かけを行うために、話し合い、実践しています。これは、本園の強みです。

10の姿は、遊びに向かう様子やお友達とのかかわり方などを観察しながら見取っていきます。同年齢の子どもとの比較ではなくて、「芽生えているか」「自発的に行動できるようになってきているか」のように、その子自身の成長を見ることが大切です。小さな変化も成長です。

さて、「10の姿」について、保護者の方からお子様を見られて、いくつ具体的な姿に表れているでしょうか。また、具体的な姿に向かっているでしょうか。

この、「10の姿」でお子様を見ていくことは、お子様との良好なコミュニケーションをとる礎になると考えます。

「幼児期の終わりまでに育つてほしい10の姿」

- ・ 健康な心と体
- ・ 自立心
- ・ 協調性
- ・ 道徳性・規範意識の芽生え
- ・ 社会生活とのかかわり
- ・ 思考力の芽生え
- ・ 自然との関わり・生命尊重
- ・ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ・ 言葉による伝え合い
- ・ 豊かな感性と表現